

A stylized illustration of a hand placing a small blue block on top of a bar chart. The chart has several bars of increasing height from left to right. The background is a solid blue color.

30th

創立30周年記念誌

地域の発展と日本の未来のために。

静岡県立大学の 理念と目標



校章

本学の校章は、日本のシンボルである富士山とそこにはばたく若鳥をイメージしたものです。

理念

- 静岡県立大学は、たゆみなく発展する大学を目指します
- 静岡県立大学は、卓越した教育と高い学術性を備えた研究を推進します
- 静岡県立大学は、学生生活の質(QOL)を重視した勉学環境を整備します
- 静岡県立大学は、大学の存在価値を向上させる経営体制を確立します
- 静岡県立大学は、地域社会と協働する広く県民に開かれた大学を目指します

静岡県立大学は、その理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において、次の目標を掲げます。

目標

教育

学生を第一に考え、学生生活の質(QOL)の向上を図り、高度かつ秀逸できめ細やかな教育を提供することで、社会に貢献できる有為な人材を育成します

地域 貢献

県民の負託に応え、県政や産業界との連携を図りながら、卓越した教育と高い学術性を備えた研究による成果を地域に還元します

研究

静岡県の最高学府としての自覚を持ち、独創性豊かで高い学術性を備え、国際的な評価に耐え得る研究を推進します

国際 交流

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、また世界に情報発信することにより、静岡県の国際交流の強力な推進力となります

静岡県立大学は、この目標を達成するため、学術的・人的資源を最大限に活用した大学運営とその体制の確立を目指します。



草薙キャンパス(旧谷田キャンパス)



小鹿キャンパス



巻頭の言葉

地方創生時代における県立大学への期待

静岡県知事

川勝 平太

静岡県立大学が創立30周年の節目を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴大学は、昭和62年度に静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学の県立3大学を統合し、薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、短期大学部を有する総合大学として開学され、平成元年に草薙・谷田地域に新校舎が完成、平成19年度に静岡県公立大学法人が運営する大学として新たにスタートされました。

また、国公立大学としては全国で初めて、開学当初から国際関係学部を設置し、グローバル化に対応するため、国際社会において活躍できる人材の育成に取り組んでこられたほか、平成24年度には大学院に薬学と食品栄養科学の二つの領域を融合させた薬食生命科学総合学府を設置、さらに、平成26年度には短期大学部看護学科を看護学部へ統合し、より質の高い看護職員の育成に注力されるなど、長きにわたり、時代のニーズに的確に対応し、静岡県のみならず、日本や世界の将来を支える有意な人材の育成に努めてこられました。

このことは、多くの方々から高く評価されているところであり、これも歴代の理事長、学長をはじめ、諸先生方の御努力の賜物と心から敬意を表しますとともに、関係の皆様御支援に対して、厚くお礼を申し上げます。

現在、貴大学では、生命科学と人文社会科学の両分野が連携して、教育・研究活動をグローバルに展開されるとともに、安全安心で健康長寿に恵まれた質の高い地域社会の形成に貢献できる「知の拠点」を目指して取り組まれています。

また、多言語による授業の導入や海外の大学との交流協定の締結などによる国際交流の活性化に取り組まれているほか、最先端の生命科学や薬食実践科学の研究の推進により、世界でもトップレベルを誇る本県の健康寿命のさらなる延伸に向け、多大な貢献をいただいているところです。さらに、大学等が持つ知的資源を集約し、地域が直面する課題解決の取組を支援する「地(知)の拠点整備事業」においては、「しずおか学」をはじめとした地域指向型の教育・研究を実践されています。

我が国が本格的な人口減少時代を迎え、地方創生が喫緊の課題となる中、本県では、「富国厚德の理想郷“ふじのくに”づくり」を県政の基本理念に掲げ、より良い社会づくりに参画し、未来を拓く「有徳の人」づくりに取り組んでいます。

貴大学には、地域に立脚し、地域に貢献する大学として、さらには、“ふじのくに”づくりの一翼を担う「知の拠点」として、その力を存分に発揮していただき、我が国の未来を担う人材育成に一層の御尽力を賜りますよう、お願いいたします。

結びに、静岡県立大学が創立30周年を契機にますます発展されますよう祈念いたしますとともに、関係の皆様の一層の御活躍を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



刊
行
に
よ
せ
て

「創設の志を思い起こし次の飛躍を目ざせ」

静岡県公立大学法人 理事長

本庶 佑

静岡県立大学は創立30周年を迎えた。

10年一昔というから三昔に設立されたことになる。

当時の設立の主旨を読むと、溢れるばかりの熱気に包まれた大きな飛躍であったことが伺われる。三昔もたつと社会の変化は大きい。人口動態も変わり、経済構造も変わり、世界の潮流も大きく変化している。もちろん学問も大きな飛躍をとげている。従来の専門特化型で蝸壺型の学問では到底今日の社会的な課題に対応できないことが何度も指摘されている。

静岡県立大学の中期目標の旗印として掲げた、文理融合、健康長寿社会の実現、多様な社会の課題解決をめざして、過去30年の静岡県立大学の活動を総括し、これを基に新たな飛躍を計る絶好の機会である。

このような契機に、創設の熱気を再び取り戻すような活発な議論が湧き上がることを期待する。



大学の新たな役割への期待に応える

静岡県立大学／短期大学部 学長

鬼頭 宏

1987年に静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学が統合され、静岡県立大学が誕生してから30年を迎えました。また、静岡県公立大学法人が設置され、法人が管理する大学へと移行してから10年となりました。

1916年に薬学部の源流である静岡女子薬学校の開設から数えれば100年。それぞれの学校は時代の要請とともに役割を変えながら、静岡県の高高等教育を支えてきました。これからも社会の期待に応えるとともに、新しい価値の創造に貢献することが求められています。いま、日本をはじめとする先進諸国では、産業文明に代わる新しい文明への転換が始まっています。文明のパラダイムシフトが起きているのです。

2020年度より学習指導要領が改定されます。初等中等教育の教育課程においても「アクティブ・ラーニング」（能動的な学習）が重視されるようになります。児童・生徒が、受け身で知識や技能を教えられるだけでなく、主体的に問題を発見し、解決方法を考え、協働して解決に努力することが求められています。いわんや大学においてをや。未来を支える学生にとって能動的な学習が求められています。大学においてこそ、教育改革が必要とされています。

見通しのきかない30年後の「地域をつくる・未来をつくる」ためには、既存の知識だけでは不可能です。新しい地域のあり方を考え、未来の社会を実現するには、産業文明を支えてきたものでない、新しい技術と仕組みが必要です。大学には文明転換の原動力となる研究を推進する責任があります。本学は2014年から「地（知）の拠点」（COC）事業として『ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点』を推進してきました。人材育成と研究成果によって地域に貢献するだけでなく、地域のハブとして地域社会をつなぐ役割も果たす義務を負っています。

最後に、健康長寿の静岡県において地域の大学に求められることは、生涯学習の役割です。20歳の男性の平均余命は60年、女性は67年もあります。学校を出たら学習は終わりという時代ではありません。人口が減少し、労働力も減少していく時代には、これまで以上に能力の高い人材が求められます。長い人生の間に、技術進歩が続き、社会の仕組みも変化します。単に余暇を楽しむためだけではなく、一人一人の能力を高めるためにも、大学が「リカレント教育」（生涯学習）に果たす役割が大きくなっています。

本学の創立30周年にあたって、あらためて地域における大学の役割、時代の転換期に置かれた大学の役割を再認識する機会にさせていただきたいと願っています。

目次

巻頭言葉	静岡県知事	川勝 平太
刊行によせて	理事長	本庶 佑
	学長	鬼頭 宏

第1部	静岡県立大学創立 30 周年をどう捉えるか	
第1章	歴代学長紹介	02
第2章	静岡県立大学への期待	06
第3章	開学記念行事シンポジウム「30年後の静岡へのメッセージ」	10
第2部	これからの静岡県立大学への期待とプロジェクト	
第1章	記念式典	
1	創立 30 周年記念式典理事長式辞	16
2	創立 30 周年記念式典学長式辞	18
3	創立 30 周年記念式典特別講演(要旨)	20
第2章	記念企画	
1	10 年後の静岡を創る	23
2	企画イベント	27
第3章	地元志向型プロジェクトの稼働	
1	地(知)の拠点整備事業	30
2	産学官連携事業	32
3	静岡健康・長寿学術フォーラム	34
第3部	静岡県立大学の開設の経緯と教育・研究のあゆみ	
第1章	静岡県立大学開設の経緯と 30 年の経緯	38
第2章	教育・研究 30 年の歩み	
1	学部・学科	
(1)	薬学部	42
(2)	食品栄養科学部	46
(3)	国際関係学部	50
(4)	経営情報学部	54
(5)	看護学部	58
(6)	短期大学部	62
2	大学院	
(1)	薬食生命科学総合学府	66
(2)	薬食生命科学総合学府 薬学研究院	68
(3)	薬食生命科学総合学府 食品栄養環境科学研究院	71
(4)	国際関係学研究科	74
(5)	経営情報イノベーション研究科	78
(6)	看護学研究科	82
3	全学教育施設・設備	
(1)	図書館	86
(2)	健康支援センター	88
(3)	情報センター	89
(4)	言語コミュニケーション研究センター	90
(5)	男女共同参画推進センター	91
(6)	グローバル地域センター	92
(7)	「ふじのくに」みらい共育センター	93
4	国際交流	94
5	教養教育の変遷	96
第3章	社会貢献(地域貢献)	98
第4章	高大連携	101
第5章	1 大型教育プログラム	
(1)	21 世紀 COE プログラム	102
(2)	グローバル COE プログラム	103
2	大型研究プログラム	
(1)	都市エリア及び地域結集	104
第4部	資料編	
1	組織、教員数、大学施設の概要	106
2	静岡県立大学法人の概要	112
3	公開講座	114
4	国際交流	120
5	諸統計	
(1)	入学志願者・入学状況	126
(2)	留学生受入状況	134
(3)	進路・就職状況	135
(4)	クラブ・サークル	140
(5)	奨学金一覧	141
(6)	附属図書館蔵書数	142
(7)	外部資金受入状況	143
(8)	国家資格試験合格者数	149
(9)	各種免許試験資格取得者数	149
(10)	顕著な受賞歴(教員)	150
(11)	顕著な受賞歴(学生)	153